



2021年6月18日

アウディ ジャパン株式会社  
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598-106  
アウディコミュニケーションセンター

## きれいな水環境を実現するための共同作業

- 環境スタートアップ企業の everwave および CLEAR RIVERS とのコラボレーション
- ドナウ川の清掃作業で 3.2 トンのプラスチックごみを回収
- ブリュッセルとブダペスト近郊に設置された革新的な「ごみトラップ」
- 回収したプラスチックごみは浮遊公園へとアップサイクル

(ドイツ本国発表資料) 2021年6月17日、インゴルシュタット:アウディ環境基金は、この数年間、水環境の改善に取り組んできました。世界の川や海を汚染しているプラスチック廃棄物の量は、驚くべき速度で増加しています。アウディ環境財団マネージングディレクターのリュディガー レクナゲルは、次のように強調しています。「水はあらゆる生命の基礎であり、保護する価値があることに疑問の余地はありません。きれいな水、海、川を実現するのは人類にとって共通の優先事項でなければなりません」

### ドナウ川の清掃

2021年4月、アウディ環境基金は環境スタートアップ企業の everwave および化粧品メーカーの BABOR と連携し、ドナウ川の清掃イベントを実施しました。2021年4月22日のアースデイを記念するこの共同イニシアチブ開始にあたり、everwave が提供したごみ回収ボート「CollectiX」が水面を漂うごみを回収しました。このボートが10日間で回収したものは、プラスチックごみだけで3.2トンにも上りました。これは、1.5リットル容量のペットボトルに換算すると、実に11万340本分に相当します。さらに、ガラスびん、古タイヤ、ドラム缶、断熱材、飲料缶といった他のタイプのごみも回収しました。

### さまざまな専門知識、共通の目標

everwave 最高経営責任者 (CEO) のマルセラ ハンシュは、アウディ環境基金および BABOR との連携に関して次のように述べています。「プラスチックごみ汚染という世界的な問題を解決するには、皆の協力が不可欠です。つまり、パートナーシップが決定的に重要です」。アウディ環境財団マネージングディレクターのリュディガー レクナゲルは、次のように付け加えています。「私たちは、異なる業界で活動しているため、この共同イニシアチブにさまざまな専門知識を提供して貢献することができます。ごみの回収に加え、水環境の汚染という大きな問題に関して市民の意識を高め、できるだけ多くの人を巻き込み、積極的に環境保全に取り組んでいただきたいと思います」

### スマートテクノロジーと AI

「CollectiX」ボートは、1日あたり最大20トンのごみを回収することができます。まずは、ドローンを使ってごみの集中するスポットを特定します。ボートに搭載したセンサーと人工知能が、ごみをインテリジェントに分析します。このボートは、大きな川の環境に対応するよう設計されているばかりでなく、狭い水路や川の支流も航行できる能力を備えています。パートナー3社は、2021年の活動のハイライトとして、複数の教育イベント、参加パートナーの拠点におけるキャンペーン、さまざまな場所で実施する清掃作業などを計画しています。

### CLEAR RIVERS - 実績あるパートナーシップ

アウディ環境基金は、2018年から非営利団体である CLEAR RIVERS と共同作業を進め、海洋におけるプラスチックごみの削減に取り組んできました。オランダに本拠地を置くこのスタートアップ企業は、ごみを集塵池で集めて海への流出を防止するための革新的なトラップを開発しました。アウディ環境

基金と CLEAR RIVERS は、アウディ ブリュッセルおよびブリュッセル港湾局と協力し、2019年3月に市内のシャルルロワ運河にごみトラップを設置しました。本年末までには、ブダペスト周辺のドナウ川にもトラップが1基追加される予定となっています。

### 海洋ごみを捉えるネット

これらのトラップは、水面を漂うごみを風や波によって集めるものです。特殊な保持機能により、一旦集まったごみが、再び海に流出しないように工夫されています。一方、魚やその他の水生生物は、網の下に潜ることができるため、捕獲されることはありません。この方法で、毎月約1立方メートルのゴミが回収されています。集まったごみは、週に2度回収されます。

### 最初に回収し、次にアップサイクル

アウディ環境基金と CLEAR RIVERS は、集まったごみを賢くリサイクルします。これらのごみは、圧縮、溶着、3D印刷といった多様な技術を駆使して、リサイクルプラスチック製の浮遊公園へと生まれ変わります。この公園は、複数の六角形のポンツーンで構成されており、それぞれのサイズは5m<sup>2</sup>で、互いに接続されています。ポンツーンには、リサイクルプラスチック製のベンチが取り付けられているものもあれば、コケや灌木、あるいは大きな木が植え付けられたものもあります。浮遊公園は地元住人の生活の質を高めるために役立つばかりでなく、昆虫や魚、水棲動物にとっての環境も向上します。

リュディガー レクナゲルは、次のようにコメントしています。「私たちは、このような新しいテクノロジーを使用して、環境をより住みやすいものにしたいと考えています。プラスチック廃棄物のアップサイクルは、私たちの財団の目標と完全に一致しています。私たちは、人、動物、植物にとって住みやすい未来を創造することに取り組んでいます」